



東串良町立池之原小学校 学校だより 令和5年度
はばたけ！ けやきっ子 7月14日発行

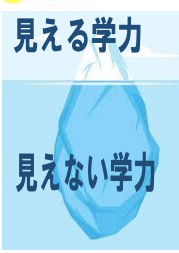
知ることは、感じることの半分も重要ではない
 校長 上葉 智明

朝顔につるべとられてもらい水 加賀千代女

7月。別名文月。「ふみづき」の由来は、七夕の織女に書文(ふみ)を供える文披月(ふみひらきづき)という意味と、稲穂の膨らむ月ということで、「含月(ふくみづき)」が転訛してなったという説もあるそうです。その他、七夜月、秋初月、女郎花月とも称されます。梅雨が明けるといよいよ夏本番。まぶしい季節の到来です。

神戸市内の小学校に長年勤務した岸本裕史氏(1980~2006)は、著書『見える学力、見えない学力』で、子供たちが育むべき学力には「見える学力」と「見えない学力」があると提唱しました。

氷山で例えると、海面上に見える部分が「見える学力」であり、テスト等で計測可能な学力です。しかしそれは、全体の7分の1程であって、大部分は海面下にあります。その隠れた部分の「見えない学力」をつけるこそが学力を豊かに大きくしていくのだそうです。「見えない学力」を支えるのが、家庭であり子供たちの群れ遊びです。練習問題やドリル等で一生懸命に取り組んでも、「見えない学力」がついていないと学力の定着も不十分です。氏は『見える学力』を確かに伸ばすには、それを支えている『見えない学力』をうんと豊かに太らせなければならないのです。貧弱な土壌では、果樹の実も、ちっぽけなままでしかありません。」と綴っています。「見えない学力」を豊かにするためには、家庭の囲らんや自然に触れる遊びが大切であることは言うまでもありません。



環境問題に警鐘を鳴らした著書『沈黙の春』で有名な米国の生物学者レイチェル・カーソン博士(1907~1964)は、著書『センス・オブ・ワンダー』で、すべての子供が生まれながらにもっているセンス・オブ・ワンダー(神秘や不思議さに目を見張る感性)を失わずに育むことの大切さを訴えます。「『知ること』は『感じること』の半分も重要ではない。子供たちが出会う出来事が、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌です。幼い時代は、この土壌を耕す時です。」と記しています。上で紹介した岸本氏の主張と驚くほど似ていることにお気づきのことでしょう。

例えば、野原を駆け回り昆虫を捕まえる、シロツメグサで冠を作る、ピカピカの泥団子を作って遊ぶ、親子で簡単な料理をして楽しむ等々、保護者の方々も小さい頃に経験されたのではないのでしょうか。遊びを通した自然との触れ合いにより、美しさを感じる感覚や未知なるものに触れたときの感激が、更にその対象をもっと知りたいと思うような意欲を喚起します。そのようにして得た知識は、子供たちの内面にしっかりと身に付いていきます。

学校を離れ、家庭で過ごす42日間の夏休みです。毎日の勉強も大事ですが、家族で自然と触れ合う時間もそれ以上に大切にしていなければありがたいです。きっと、子供たちにとって、かけがえのない時間になります。9歳の子供が、9歳の子供として過ごす夏休みは、今年1回きりしかないのですから…。夏の暑さをいっぱい感じ、白い雲を見上げながらスイカにかぶりついて美味しさを感じる、そんな夏を過ごしてほしいものです。



日新公いろはうた
似たるこそ友としよければ交らば 我にます人 おとなしき人

【大意】 友人を選ぶときは、自分と似ている人を選びがちだが、自分を向上させるためには自分より優れた見識をもつ人を友とするのが良い。
 似た者同士はすぐに仲良くなれますが、自分がないものをもった人と友達になると世界が広がります。時には、厳しく忠告してくれる人だったり、励ましてくれたりする友がいるといいですね。

わくわく！どきどき！土曜参観

6月10日(土)の土曜授業日では、土曜参観を行い、保護者の皆様に授業を参観していただきました。今年度が始まり2か月余り経ち、現在の学年の授業にも慣れ、意欲的に学習に取り組んでいる子供たちの様子をご覧いただけたことと思います。



なお、今後も授業参観や学級PTA等に車で来校される際は、PTA 駐車場を利用することで、路上駐車により地域の方々にご迷惑をおかけすることがないようご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

「いざ」というときのために 7月7日(金)に、東部消防署員の方々をお招きし、6年生を対象とした救急講習を行いました。消防署員の方々の指導の下、子供たちは真剣に胸骨圧迫(心臓マッサージ)の練習に取り組んでいました。また、緊急のときは落ち着いて、大声をあげ近くの人に助けを求めることもが大切だということも教わりました。今回の経験を活かし、安全に過ごしてほしいものです。



かしまジュニア検定 本県の歴史や文化を知る楽しさを味わい、郷土教育の推進を目的とした取組で、鹿児島県の歴史や文化、産業等に関する問題が20問出題され、15問以上の正解で合格となります。

今年も「県民の日」である7月14日に、5・6年生が挑戦します。今以上に鹿児島への興味を高めてほしいものです。

レッツトライ2 池之原小特別支援教育コーディネーター わかば学級い組担任 木佐貴 陽子 文責
 今回からは、成田奈緒子医学博士・上岡勇二臨床心理士著の『子どもの脳を発達させるペアレンティング・トレーニング』から一緒に学びたいと思います。

「発達」とは、「子どもが生まれてから約18年間を通して体の大きさやその機能を成長させていくこと」と考えるそうです。脳育てには、守られるべき順番とバランスがあり、脳を3つのパートに分けて考えます。

まず、最初にきちんと育てられるべき脳は、寝ること、起きること、そして食べることを司る「からだの脳」Aです。つまり生きるための脳です。これが、人間が生まれてから第1番目に始まる脳と体の発達です。0才から5才までで育っていきます。

1才頃からは「おりこうさんの脳」Bの育ちが始まります。この脳は言語機能や微細運動、思考などを司ります。特に小中学校の学習を中心として18才くらいまでの時間をかけて育ちます。

最後に育つのは「こころの脳」Cです。人間的に論理思考を行うことで、問題を解決する能力のことです。

Aの情動がBにつないで状況判断や記憶を使って自分がとるべき最良の行動や言動を選ぶようです。どんな子でも発達には決まった順番があり、それが前後することはないのです。ただし、バランスがとれても大事だそうです。2階建ての家に置き換えてイメージしましょう。Aは1階、Bは2階、Cは屋根です。A・B・Cのどこがしっかりしていた方がよいでしょうか？
 今回は、3つの脳のバランスについて学びましょう。

セカンドブック 東串良町教育委員会の取組として『セカンドブック事業』があります。子供たちの発達の段階に応じた切れ目のない読書活動を推進し、本に親しみ豊かな心を育みながら読書への興味関心を高めることを目的とした事業です。1歳6か月健診の際、絵本2冊とバッグを町教育委員会からプレゼントされたことと思います。

今年から、小学1年生に、さらに絵本2冊をプレゼントされることになり、6月14日(水)に町教育委員会教育長と町教育委員会社会教育課長に来校いただき、絵本の贈呈式が本校体育館で行われました。

2冊ずつ絵本をプレゼントされた1年生はみんな大喜びで、さっそく開いて読んでいました。読書好きな「けやきっ子」たちに育ってほしいものです。



7~9月の主な行事

- 7月
 - 14日(金) 鹿児島ジュニア検定(5・6年)
 - 20日(木) 第1学期終業式
 - 21日(金) 夏休み ~8/31
- 8月
 - 19日(土) 第2回PTA愛校作業
 - 21日(月) 出校日
- 9月
 - 1日(金) 第2学期始業式
 - いじめ問題を考える週間~7日
 - 9日(土) 土曜授業
 - 24日(日) 第3回PTA愛校作業

